

1 研究主題

SDGs を学び生かす 総合的な学習の時間の創造

2 はじめに

令和3年度に小牧市は「SDGs 未来都市」に選定された。本研究会では、SDGs を学び、理解を深め、生活に生かすための取り組みや、事業の模索、事前・事後指導をどのように行っているかなどを、小・中学校部会に分かれて研究してきた。

またそれに合わせて、令和6年度からは宿泊研修や文化祭などの学校行事がコロナ前のように解禁されていった。すべてが以前と同じようにいかない中で、各校がどのような工夫のもと活動を行っているのかを実践交流し、そこで学び得たことを持ち帰って、市内のすべての小中学校において、よりよい活動となるよう努めた。

3 研究経過

小学校部会・中学校部会に分かれて研究を行っている。各部会の中で、月ごとに検討するテーマを設定し、各校での取り組みや成果、課題などの意見交換を行った。意見交換の際、実際に使用した指導案や提案文書、子どもに配布した資料を持ち寄るようにした。また、持ち寄った資料は、データでも共有できるよう、交換箱内にフォルダを作り、蓄積できるようにした。

4 研究の概要

(1) 小学校部会

小学校部会では、SDGs に関する実践報告・情報交換を中心に行った。報告では、各校の地域の特色を生かし、地域住民の協力を得ることで、施設見学や体験学習など、子どもたちにとって有意義な活動ができたとの話が聞かれた。

また、実践に対するまとめや評価の方法を話し合う中から、ICT 機器の活用法など、子どもたちの実態に沿った手立てはどのようなものかを考えた。

(2) 中学校部会

SDGs について、外部から講師を招いてカードゲームでの実践や宿泊研修の活動における実践、コンセンサスの授業での実践報告などが行われた。また、今年度は防災に関する活動を行った学校が多く、その情報共有を行った。消防などの地域のリソースや、赤十字団体などの外部の団体

から招いて活動を行うところがあった。

研究の後半からは、来年度から「My 探究」が始まるということで、各校どのような動き出しをしているのか、どのような年間計画で進めようとしているのかなどの情報交換も行った。

5 成果と今後の課題

(1) 小学校部会

SDGs を意識することで、子どもたちは自分たちの身の回りの生活が環境や人権と深くつながっていることに気づき、これまで以上にすすんで活動に取り組めるようになった。各校の実践報告を聞き、情報共有することで、それぞれの学校の児童への指導に生かしていくことができた。調べ学習やまとめ、発表の仕方など児童の実態に合わせたより効果的な方法について今後も検討していきたい。

(2) 中学校部会

本年度は SDGs（持続可能な開発目標）の学びと防災教育を柱に、さまざまな取り組みを行った。SDGs に関する学びでは、SDGs の事業を展開している企業から講師を招き、専門的な視点での講話を実施した。この活動を通じて、生徒たちは持続可能な社会の実現に向けて、企業や個人が果たす役割について具体的な理解を深めた。また、学校独自で考えたプロジェクト活動や地域団体との連携による体験活動を通じて、生徒主体の学びを推進した。これにより、生徒たちは SDGs の理念を実生活や地域の課題と結びつけて捉え、自ら行動を起こす意欲を高めた。

防災教育では、避難訓練を単なる避難行動の確認にとどめず、その効果を検証し、生徒が訓練を振り返る活動を取り入れた。また、総合的な学習の時間を活用し、全校一斉に東日本大震災を振り返りながら防災について考える場を設けた。さらに、赤十字の協力を得たところ、ゲーム形式の学習を通じて、災害時に必要な行動や意識を楽しみながら学ぶ機会を提供した。NPO 法人の方を招いて職員研修も実施し、学校が避難所として機能する際の具体的な対応方法についても学ぶことができた。

これらの取り組みを通じて、生徒たちの SDGs や防災に対する関心と意欲が一層高まり、主体的に考え、行動する力が育まれた。今後の課題として挙げられるのは、限られた時間をどのように捻出するかという点である。新たな活動や行事が増加する一方で、全てをこなすことは難しく、何を優先し何を削るのか、活動内容の精選が必要不可欠となっている。この精選作業は、生徒たちの学びの質を向上させるために欠かせないものであり、学校全体としての取り組み方針を見直していくことが求められている。

これからも、SDGs と防災教育を中心に、生徒が社会の課題に主体的に向き合い、地域や世界に貢献する力を育む教育を進めていくとともに、限られた時間を最大限に活用し、質の高い学びを提供していくことを目指していく。